

(学年) 第1学年, (教科・科目) 英語・コミュニケーション英語 I

協働学習

(単元) Lesson3 What Should I Do?

(本時のねらい)

本単元では Ryota の悩みの内容を理解したうえで、自分の意見を簡潔に書く。「助言をする表現」である Why not~?を用いて英文を作成し、簡単なアドバイスができるようになる。同時に、アサーショントレーニングの観点から、その場にふさわしい自己表現とは何かを考える。

(ICT 活用方法)

授業支援クラウドアプリの共有機能を活用して、本課の Ryota の悩みに対する助言文をメール形式で書く。タイピングさせる前に、生徒たちの産出英文を電子黒板上で共有することで、生徒は他の生徒の文章を参考にしながら自分の文章を作成する。教員はどのようにすればより伝わりやすい文になるかを生徒に問いかけながら、リアルタイムで一緒に添削する。ただしこの際に、英文の正しさよりも学習者の満足感や達成感を優先し、修正や指導を加えることはできる限り行わない。辞書の活用を勧めたり、大事な部分や良くできている部分に色付けをするなどして簡単にポイントを提示するが、文法的な面での指摘は最小限に留めることとする。作成したメールは教室前方の電子黒板を使用して、授業の最後に生徒自身が発表する。

(本時の展開)

時間	学習活動	指導事項	I C T 活用方法
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> 本時の流れを知る 本文の内容を振り返る 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の流れを伝える 学習内容を振り返る 	<ul style="list-style-type: none"> 1時間の流れを電子黒板で示す 授業支援クラウドアプリで各生徒の1人1台端末にプリントを配布する
展開 30分	<ul style="list-style-type: none"> メールを作成する 1人1台端末でメールに書く内容を整理する タイピングして仕上げる 	<ul style="list-style-type: none"> 間違ふことを恐れないうような言葉をかける 辞書の活用を促す 時間管理を行う アサーティブな表現を意識するよう言葉をかける 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の産出英文をリアルタイムで電子黒板に表示し、簡単なポイントの提示を行う
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> 電子黒板で発表する 本時のまとめをす 	<ul style="list-style-type: none"> 内容や発表について、良かった点や改善点をクラスで共有 	<ul style="list-style-type: none"> 電子黒板に生徒のタイプしたメールを表示する 優れている点に色をつけ

	る	し、今後の積極的な学習活動につなげる	るなどして、生徒の1人1台端末に保存させる
--	---	--------------------	-----------------------

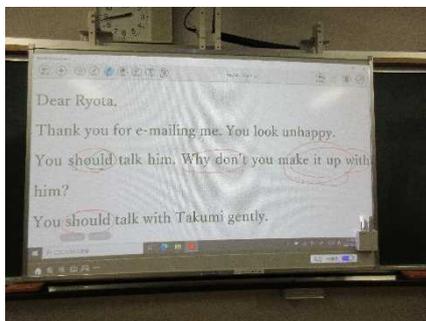
(授業の様子)



授業の様子



生徒の様子



授業プリント

(生徒の反応と課題，改善を要する点)

メールという身近なツールを利用したことで、生徒は興味を持って授業に取り組んだ。しかし生徒のほとんどがタイピングに不慣れで、想定していたより多くの時間を打ち込み作業に要した。普段の授業の中で、パソコンに触れる機会をもう少し増やしたい。また、自分が書いたメールを電子黒板で発表する際、他の生徒からの質問に対して、英文を作成した生徒は自発的に説明・回答することができた。ただ、ほかの生徒が使った表現を理解できなかった生徒もいたため、既習の Useful Expression の表現をスムーズに使いえなかったという点では、反復練習と pattern practice の機会を、限られた時間の中でいかに増やすかが今後の課題である。